

## 令和6年 能登半島地震の群馬 JRAT 活動報告（言語聴覚士会用）

令和6年1月20日～22日の3日間で、能登半島（中能登・志賀町・七尾市）の計9か所の避難所にリハビリ支援を行ってきました。支援内容としては、避難所での口腔嚥下アセスメントと嚥下指導、災害リハビリトリアージ、段ボールベッドの作成と環境調整等多種多様の支援を行ってきました。

初日に石川 JRAT より開口一番に、「口腔アセスメントができていないので、それを行ってほしい」といった要望や、DMAT や保健師からも「嚥下評価で言語聴覚士の介入をお願いします」とあるなど、ST のニーズが非常に高い状態にとっても驚きました。

私自身も初参加で、初日は何をどう動いたらよいかかわからず、至らぬ点多々ありましたが、群馬 JRAT の Dr や PT,OT のチームメンバーのサポートのおかげもあり、2日目、3日目には災害リハのアセスメントができるようになりました。

避難所の人たちは生活不活発（オーラルフレイルも含む）が進んでおり、継続的な災害リハビリ支援の重要性を痛感しました。石川 JRAT から、「行政側が避難所を閉鎖することになった場合、今の状態で避難所にいる人たちが生活を送るのは難しい状態になる。JRAT としてどのように支援をしていったらいいのか非常に難しい課題」と頭を悩ませる状態でもありました。

だからこそ、継続して JRAT は引き続き支援をしていかなければなりません。

被災地では北は北海道、南は沖縄と全国各地の DMAT、JMAT、JRAT、保健師チーム等多くの災害医療チームが集まり、お互いに密に連携を取りながら継続的に支援を行っています。

今回私が行っただけでは、単発の支援で終わってしまいます。

群馬 JRAT も第2陣、第3陣と支援派遣を行っていく予定です。ST がいなければ、十分な継続フォローができません。どうか、群馬県言語聴覚士会会員の皆様にも群馬 JRAT として支援をお願いしたく申し上げます。

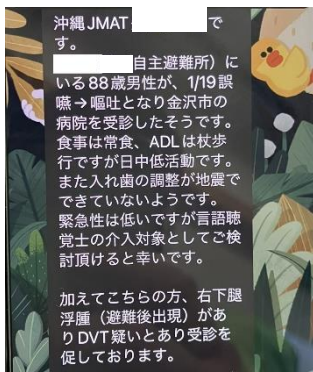
今回、群馬県言語聴覚士会を始め、理学療法士会や作業療法士会など多くの人たちよりご支援・ご協力を頂いたおかげで支援が可能となりました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

（文責：前橋医療福祉専門学校 永原大樹）



←群馬 JRAT チーム  
Dr,PT,OT,ST と理想的なメンバー構成  
だったため能登半島で大活躍でした

↓七尾市対策本部  
全国の災害支援チームが集まり、  
ミーティングを行っている様子



←JMAT の依頼で、嚥下評価を実施。  
隣の奥さんの方もむせると話があった  
ので合わせて評価を行いました。

※ 写真の画像の転載やコピー、SNS への投稿は禁止